

にしのおいけ

社会福祉法人 平成会

住所 東広島市高屋町小谷 5001-5
TEL (082) 434-0405
FAX (082) 434-5599
メール heiseikai@nishinoike.or.jp
HP <http://www.nishinoike.or.jp/>
編集 (社福) 平成会 広報部
発行者 (社福) 平成会理事長 赤坂 秀則

第 83 号

(平成 30 年 1 月 1 日)



「パウンドケーキを作る「あおぞらぱん屋さん」のAさん」

(4面に紹介記事)

it's travel time
デイセンタ―こだま
こだま旅行
it's travel time

今回は旅行に参加されたご家族の方より、ご寄稿いただきました。

10月6日〜7日と、こだま旅行へ参加させて頂きました。今回、こだまの旅行に参加するのは3回目です。朝起きると雨が降っていました。9時にこだまに行く観光バスが到着してました。参加者は利用者23名、職員12名、保護者2名の合計37名。9時半に集合しました。雨なんか関係ないというように、みなさん晴れ晴れとした顔でバスに乗り込み、見送りの人に手を振って出発しました。バスで走っている時は雨が降っていたにも関わらず、空も味方してくれているように移動で下りる時は傘も必要ませんでした。

夜、ホテルで美味しいごちそうを食べた後の宴会ではお腹を抱えて大笑いしたり、ゲームに参加したりで楽しかったです。利用者さん皆さん笑顔で大満足の様子でした。

7日は倉敷美観地区を散策するのは、良い天候でした。グループごとで歩きましたが私たちの班は背が高く、足の速い人たちがばかりで、息子と迷子にならないように付いて歩きました。帰りのバスの中では恒例のくじ引きで盛り上がり、疲れも吹っ飛びました。息子も「また行こうね」と喜んでいました。ありがとうございました。

大田 洋子



あおぞらぱん屋さん

A O Z O R A B A K E R Y

Aさんのパウンドケーキ
あおぞらぱん屋さんでは、パンの他にクッキー、ラスク、パウンドケーキ、マフィンなどのお菓子も製造しています。

毎日午後の作業で、利用者のAさんが製造しているのが「あおぞらぱん屋さん」です。Aさんは仕事をやるのが大好きで、職員がしている新しい作業にも「一緒にやります！」と元氣よくアピールされます。初めは職員と一緒に作っていましたが、3ヶ月でレシピを見ながら一人で工程通り作れるようになりました。今までは誰かと一緒に作業する事が苦手でした。今では、大好きなお菓子作りが毎日出来ることで、他の利用者さんとも協力して一緒に作業出来る様になりました。



様々な経験を通して、ぱん屋さんのみんなが苦手、不得意な作業を「好きな作業」に変えて行ける環境作りをして行こうと思っています。

あおぞらぱん屋さん
宮谷 亜津沙

MENU!



おすすめ商
チョコナッツベ
180円
チョコチップとロー
入った米粉ベーグルで

入所施設の新たな役割

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

さて、現在の福祉の動向として、入所施設から地域へ住まいを移す「地域移行」が数値目標を設定し進められています。西の池学園では、既に平成13年からグループホームを整備し、「地域移行」に積極的に取り組んでおりますが、本年度、高屋町宮領地区拠点整備事業の第1期事業として、5名定員のグループホームを開設しました。現在、法人全体で8ヶ所40名の方が生活されるに至っています。

先般、女性利用者のグループホーム移行に際し、身体介護度の高さや対人関係を心配しましたが、移行後の本人の様子を見ても満足して生活されております。これは地域で暮らしたいという本人の願いとグループホーム職員の熱い思いが実を結んだものと思えます。

一方、西の池学園では地域移行の流れの中で、昨年10月に入所定員70名を60名に減員しました。定員減にもない空いた居室は模様替えしてショートステイでの活用を進めます。

これによって、年間をとおして安定してショートステイの受け入れができるようになり、とりわけ緊急時の受け入れ、いわゆる「緊急ショート」の体制を充実させることができます。

入所施設の新たな役割として、入所利用者の支援はもとより、地域で暮らす障害のある方、そしてご家族にとつて、365日24時間の支援体制が整った入所施設は、地域生活を支えるセーフティネットの役割を果たしているものと自負しております。

地域で生活する障害のある方の困った時の拠りどころ、また心の支えとして頼りにされ、地域に必要とされる施設であり続けられるよう一層の努力をしていきたいと思えます。

西の池学園 副施設長 貞保 治喜